

414  
A2419  
1

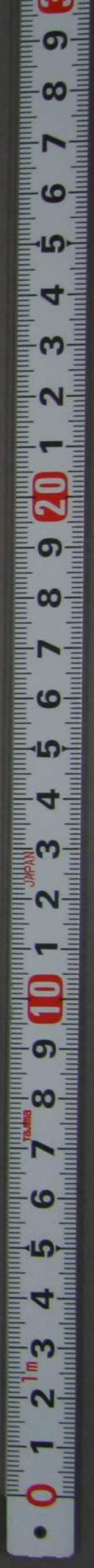


第一國立銀行へ示連榮

第一國立銀行  
三井銀行

大正十一年四月  
大隈侯爵以贈

今般内國債ヲ募集セラル、ノ大昔ハ即チ本年第一號ノ公  
布ヲ以テ告示セラレタリト雖比尙チ其起業ノ目的等ヲ提  
記センニ支レ本邦従来農ヲ以テ國ヲ立テ頗ル其効績ヲ顯  
ハスト雖比全國中現ニ耕植ニ宜シキ田ニシテ久シク草菜  
ニ季シ牧畜ニ佳ナル野ニシテ猶才曉瘠ニ屬スルモノ多シ  
掌ヲ試ミニ出地人トニ就テ之ヲ論スルニ全國ノ面積大約  
貳萬四千八百方里ノ多キニ居ルモ其耕地ハ凡貳千七百餘  
方里ニシテ僅カニ十分ノ一強ノ割合ニ過キス而シテ人々ハ  
三千四百方里ニ推ハ萬八千三百餘人ノ内千五百六十餘人ハ





百餘人ヲ雇トシ即チ十分ノ四半程ノ割合ナリトス則チ豈  
ニ之ヲ地ニ遺利アリ或ニ餘カアリト謂ハガレベケンヤ其  
然ル所以ヲ推考スレバ復々唯運輸ノ便能ク開ケスレテ其産  
出スル物動モスレバ一所ニ凝滞シテ各地ニ融通セズ遂ニ  
其利兩若シクハ價格ヲ定ムルニ至ルノ弊多キニ居レリ  
トス而メ又斯ニ他ノ高工モ隨テ販賣製作等ノ職業ヲ盛大  
ニスルニ由シ無キ所以ノ實ヲルヲ推シテ知ルベキナリ又  
本邦ノ鑛山ニ富ムハ風ニ著名ナリト雖モ資本器械ノ充足  
セザルト人夫ノ此業ニ習練スルノ少キトニ由リ或ハ之ニ  
從事スル者アルモ多クハ充分ノ利ヲ收ムル能ハス其甚シ  
キハ多少ノ收益ヲ確認スベキ良坑アルモ措テ之ヲ不問ニ  
付スルニ至レリ且ツ方今ノ際銀行諸會社ノ如キ稍繁興ノ  
運ニ赴ケリト雖モ之ヲ導スルニ高貴製作ノ事依稀振ハス

シテ運用活動ノ道ニ乏シキヲ以テ動モスレバ其積集ノ資  
本ヲシテ空シク凝滞ニ毒セシムルノ現状無キ能ハザル所  
以ノモノハ他無シ復々物産繁殖ノ源未タ開ケス融通運輸  
ノ道能ク通セザルヲ以テ其交互連貫相待テ進歩スルヲ得  
ザルノ故ニ坐スルノミ故ニ今ノ際ニ當テ本邦ノ計ヲ為ス  
ニ豈ニ又勢メテ海門ヲ脩繕シ陸路ヲ開通シ以テ往來運輸  
ノ便ヲ擴張シ俟セテ諸鑛坑ノ開採業ニ開墾牧畜其他ノ農  
事ヲ振起改良シ以テ百貨物産ノ増殖ヲ謀ルニ邁キタルモ  
ノアラシヤ是レ實ニ今日ノ急務ニシテ其起業ヲ渴望スル  
蓋シ一日ニ暇ザルナリ今ヤ政府ガサニ觀察採擇スル所ア  
リ右等ノ事業ヲシテ大ニ振作スル所アラシメントテ而メ  
是レ原ト巨額ノ費途ヲ要シ曾テ賦稅其他ノ能ク辨了ニル  
所ニ出ザルヲ以テ百方之ヲ極盡シ終ニ此公債ヲ起シ募集

大  
義  
旨



ナル所ノ金額ヲ以テ悉ク此費途ニ供スル一ヲ議決セリ蓋  
シ此起業タル施為其宜シキヲ得ルニ於テヤ乃チ殖産ノ利  
源ヲ用キ高賣ノ隆運ヲ賛シ終ニ全國ノ富實ト一般ノ幸福  
トヲ組成スルノ基ヲタル丁度夕疑ヲ容レガル所ナリ若夫  
レ此公債ノ如キハ既ニ政府ノ信憑ヲ以テ発行セル利付ノ  
債券ナレバ之ヲ有スル者ハ坐カラ自個ノ儲蓄ヲ増殖スル  
ヲ得而メ其蓄集ニ充ツル所ノ金額ハ詭テ國家富實ノ資用  
ニ供シ以テ一般ノ便益ヲ増スヲ得富者ハ之ニ由テ其蓄積  
ノ實貨ヲ閑却シテ毛磔ト同視スルノ實無ク貧者ハ之ニ由  
テ各々其應分ノ力役ニ就キ始終生産ヲ保ツノ益アル等其  
便利昭々半トシテ敵フベカラザルモノアリ仍テ今爰ニ起  
業ノ部類并ニ此公債ノ費途概目ヲ掲ホスル一此ノ如シ

第一 西京大坂間ノ鐵道線ヲ延ヘテ直チニ敦賀港ニ達ス

ル事

第二 新潟并ニ石ノ巻等ノ諸港ヲ疏鑿修繕シ及ヒ各地  
要所ノ陸路改道ヲ開通前年スル事

第三 秋田縣下院内阿仁其他ノ鑛山開採ヲ改良シ及ヒ  
銀銅製煉所ヲ設立スル事

第四 北海道岩内管内ノ炭坑ヲ開鑿スル事

第五 諸曠野ヲ開墾シ及ヒ牧畜其他ノ農事ヲ興起改良  
スル事

右數項ノ起業ハ此公債募集ノ專ト共ニ順次着手シ大小難  
易ニ由リ遲速アルベシト雖ハ六公債ニ年乃至五年迄ニシテ  
竣切ヲ見ルノ目的ナリ而メ此公債募集ノ金額ハ夫シテ他  
ニ消費セズ悉ク專ケテ以テ右等ノ起業ニ充ツルハ既ニ確  
定シテ勤クテ無シト雖比其之ヲ各起業ニ分附スルノ割合



114  
A2419  
2

ハ實際ニ於テ多少斟酌スル所無キ能ハザルヲ以テ暫ク之ヲ明示セス尤モ右起業上ノ計算ハ着手ノ初メヨリ殊ニ之ヲ詳細ニシ毎手其進歩ノ景状ト收出ノ計算トヲ公示スベシ且ツ此公債之利ハ支消ハ右等起業ニ於テ回收スル所ノ利益ヲ以テ之ニ充ツル見込ナリト雖モ起業創始ノ際ニ當テハ固ヨリ其收益ヲ見ル能ハザルノミナラス又右ノ起業中ニハ全般ノ殖益ヲ主トシテ該業ノ得失ノミニ限セザルノ類ナルヲ以テ此公債ノ之利拂戻シノ目的ハ原ト大藏省ニ於テ別ニ計算ノ在ル有リ追テ本年底ノ歳入出豫業公布ノ日ヲ待テ之ヲ詳悉スベシ

右ノ通為心得示達候條體認盡力可致候事

年月日

大藏卿 姓名印

大正十一年四月

第一國立銀行一示達案

第一國立銀行  
三井銀行

今般内國債ヲ募集セラル、ノ大旨ハ既ニ本年第 号ノ公布ヲ以テ告示セラレタリト雖モ尙オ其起業ノ目的等ヲ提記セシニ夫レ本邦從來農ヲ以テ國ヲ立テ頗ル其効績ヲ顯ハスト雖モ全國中現ニ耕植ニ宜シキ田ニシテ久シク畑菜ニ委ビ牧畜ニ佳ナル野ニシテ猶オ疏瘠ニ屬スルモノ多シ嘗テ試ミニ土地人口ニ就テ之ヲ驗スルニ全國ノ面積大約貳萬四千八百方里ノ多キニ居ルモ其耕地ハ九萬千七百餘方里ニシテ僅カニ十分ノ一強ノ割合ニ過キス而シテ人口ハ三千四百三拾八万八千三百餘人ノ内



千五百六拾三萬六千餘人ヲ農トシ即十分ノ四半強  
ノ割合ナリトス則チ豈ニ之ヲ地ニ遺利アリ民ニ餘カ  
リト謂ハザルベケンヤ其然ル所以ヲ推考スレハ復唯運  
輸ノ便能ク開ケザシテ其産出スル物動モスレハ一  
凝滯シテ各地ニ融通セズ遂ニ其利用若シクハ價格ヲ亡  
失スルニ至ルノ弊多キニ居レリトス而メ又斯ニ他ノ高  
工モ隨テ販賣製作等ノ職業ヲ盛大ニスルニ由シ無キ所  
以ノ實アルヲ推シテ知ルヘキナリ又本邦ノ礦山ニ富ム  
ハ夙ニ著名ナリト雖氏資本器械ノ充足セザルト人民ノ  
此業ニ習練スルノ少キトニ由リ或ハ之ニ從事スル者  
ルモ多クハ充分ノ利ヲ収ハル能ハス莫甚ニキハ多少ノ  
収益ヲ確認スベキ良坑アルモ措テ之ヲ不問ニ付スルニ  
至レリ且ツ方今ノ際銀行諸會社ノ如キ稍繁興ノ運ニ赴

ケリト雖氏之ヲ要スルニ商賣製作ノ事依稀振ハスレテ  
運用活動ノ道ニ乏シキヲ以テ動モスレハ其積集ノ資本  
ヲシテ空シク凝滯ニ委セシムルノ現状無キ能ハザル所  
以ノモノハ他ナシ復タ物産繁殖ノ源未タ開ケス融通運  
輸ノ道能ク通セザルヲ以テ其交互連貫相待テ進歩スル  
ヲ得ザルノ故ニ坐スルノミ故ニ今ノ際ニ當テ本邦ノ計  
ヲ為スニ豈ニ又務メテ海門ヲ脩繕シ陸路ヲ開通レ以テ  
往來運輸ノ便ヲ擴張シ併セテ諸鑛坑ノ開採并ニ開墾牧  
畜其他ノ農事ヲ振起改良シ以テ百貨物産ノ増殖ヲ謀ル  
ニ過キタルモノアラニヤ是レ實ニ今日ノ急務ニシテ其  
起業ヲ渴望スル蓋シ一日ニ非ザルナリ今ヤ政府方ナニ  
觀察採擇スル所アリ右等ノ事業ヲレテ大ニ振作スル所  
アラシメントス而メ是レ原ト巨額ノ費途ヲ要シ嘗テ賦



税其他ノ能ク辨了スル所ニ非ナルヲ以テ百方之ヲ經畫シ終ニ此公債ヲ起シ募集スル所ノ金額ヲ以テ悉ク此費途ニ供スルヲ議決セリ蓋シ此起業タル施為其宜シキヲ得ルニ於テヤ乃チ殖産ノ利源ヲ開キ高賣ノ隆運ヲ贊レ終ニ全國ノ富實ト一般ノ幸福トヲ組成スルノ基本タルヲ復タ短ヲ容レザル所ナリ若夫レ此公債ノ如キハ既ニ政府ノ信憑ヲ以テ發行セリ利付ノ債券ナレバ之ヲ有スル者ハ望ナカラ自個ノ儲蓄ヲ増殖スルヲ得而メ其募集ニ充ツル所ノ金額ハ翻テ國家富實ノ資用ニ供シ以テ一般ノ便益ヲ増スヲ得富者ハ之ニ由テ其蓄積ノ寶貨ヲ開却シテ瓦礫ト全視スルノ弊無ク貧者ハ之ニ由テ谷ニ其應分ノ力役ニ就キ始終生産ヲ保ツノ益アル等其便利昭々乎トシテ蔽フベカラザルモノアリ仍テ今茲ニ起業ノ

部類并ニ此公債ノ費途概目ヲ揭示スルヲ此ノ如シ

第一 西京大阪間ノ鐵道線ヲ延ヘテ直千ニ敦賀港ニ達スル事

第二 新潟并ニ石ノ巻等ノ諸港ヲ疏鑿修繕シ及ヒ各地要用ノ陸路阪道ヲ開通削平スル事

第三 秋田縣下院內阿仁其他ノ鑛山開採ヲ改良シ及ヒ銀銅製煉所ヲ設立スル事

第四 北海道岩内幌內ノ炭坑ヲ開鑿スル事

第五 諸曠野ヲ開墾シ及ヒ牧蓄其他ノ農事ヲ興起改良スル事

右數項ノ起業ハ此公債募集ノ擘ト共ニ順次着手シ大小難易ニ由リ遲速アルヘシト雖氏大抵二年乃至五年迄ニシテ竣功ヲ見ルノ目的ナリ而シテ此公債募集ノ金額ハ決



シテ他ニ消費セズ悉ク舉ケテ以テ右等ノ起業ニ充ツル  
ハ既ニ確定シテ動クヲ無シト雖モ其之ヲ各起業ニ令付  
スルノ割合ハ實際ニ於テ多少斟酌スル所無キ能ハサル  
ヲ以テ暫ク之ヲ明示セズモ右起業上ノ計算ハ着手ノ  
初ノヨリ殊ニ之ヲ詳明ニシ毎年其進歩ノ景状ト収出ノ  
計算トヲ公示スベシ且ツ此公債元利ノ支消ハ右等起業  
ニ於テ回収スル所ノ利益ヲ以テ之ニ充ツル見込ナリト  
雖モ起業創始ノ際ニ當テハ固ヨリ其収益ヲ見ル能ハザ  
ルノミナラス又右ノ起業中ニハ全般ノ利益ヲ主トシテ  
該業ノ得失ノミニ関セザルノ類アルヲ以テ此公債ノ元  
利拂戻シノ目的ハ原ト大蔵省ニ於テ別ニ計算ノ在ル有  
リ追テ本年度ノ歳入出豫算公布ノ日ヲ待テ之ヲ詳悉ス  
ベシ

右ノ通為心得示達候條體認盡力可致候事

年 月 日

大蔵卿姓名印



